



日米ホーム スクーラー 間の 交流

アメリカから、5人のホームスクーラーたちが、チア東北サポーターチームに加わるために来日しました。HSLDAやチア・カリフォルニア発の記事に応じた5人は、小論文と推薦書審査を経て、日本で初顔合わせしました。

最初は、山口つよし内閣府副大臣(復興等担当、現 外務省副大臣)とのミーティングで、内閣府を訪問、日米の架け橋として貴重な体験をしました。その後、チア・サポータースクール富士山麓英語キャンプで、5人チームは、陽気になんばつてくれ、バスの中から「This is USA」の空気をクリエイトしてくれました。そして、『第5回チア・東北サポーター』に参加し、2週間、日本での日々を過ごしました。詳細は次号にて紹介予定ですが、先行して2人の参加者にレポートを書いてもらいました。

東日本大震災

特集

パート2

チアにつぼん

被災地支援に参加して

By Carrie Cuddington

キャリー・カディントン

カリフォルニア州、ホームスクーラー14才

特権―楽しさ、
充実感と豊かな学び

私と他4名の、ティーンのアメリカー人ホームスクーラーたちは、この夏、日本へ行って、そこでのチア・サポータースクールの英語キャンプと被災地支援に参加するという、素晴らしい特権にあずかることができました。キャンプとボランティアのどちらも、始めから終わりまでとても楽しく、充実していただけでなく、同時に、ものすごい学びと奉仕の経験でもありました。

チア・サポータースクール
英語キャンプの成功―
日本のホームスクーラーを
「英語」で励ます!

私は、チア・サポータースクール初の英語キャンプ



■雨の中の富士山登山。もうすぐ、7合目!



■殺菌・除臭のためのEM(バクテリア剤)の散布
(気仙沼 8月)

スクーターは多くはいません。その彼らと一緒にキャンプし、彼らの英語学習を助け、共に楽しい時間を過ごすのは、素晴らしい経験であり、恵みでした。

被災地で考えた神さまの計画

8月29日から9月2日は、東北地方に行つて、支援活動をしました。私たちアメリカ人チームと、英語キャンプから続けて参加した十数名の日本人のティーンや親たちの他に、さらに新たに10名余りが加わり、全部で26名が参加しました。この旅の間、私たちは、物資支給や伝道、側溝や泥の上からEMと呼ばれる殺菌バクテリアを散布、住宅からの汚泥の掻き出しと、泥まみれの事務所の水洗いなどを行いました。

殺菌・除臭のためのEM(バクテリア剤)の散布 (気仙沼 8月)

途中、津波で完全に破壊しつくされた町のひとつ陸前高田へ行きました。歩き回つて写真を撮り、考える時間が十分ありました。私は、数枚の写真撮りましたが、ほとんどの時間は歩きながら色んなことに思いを巡らせていました。自分が見ているこの信じられないような全てについて、どうたら

映画『ソウル・サーファー』(全米4位)を英語で観ました。

キャンプはまた、とても楽しいものでした。金曜日の午後、野球場でスポーツとゲームの時間がありました。沢山のめちゃくちゃ面白く楽しいゲームやスポーツをして遊びました。

土曜日には、富士山の7合目まで登りました。雨が降っていて、びしょ濡れになりましたが、誰もが楽しんでいました。

神さまと交わる時間は、私がこのキャンプで特に気に入っていた時間のひとつでした。毎朝、皆が個々にデイポジションを捧げる時間もありました。皆で賛美を捧げ、短いメッセージを聞く、礼拝の時間も毎日ありました。とても恵まれる時間でした。

日本人ホームスクーラーたちを助けることが、キャンプの重要な部分でした。日本には、まだホーム

に戻そうとするのではなく、前進すべきもの、人々が、神さまの愛に気づく時、そして神さまの愛を分かち合うための、この上ない機会だと思いました。これは自分自身を筆頭に、皆が謙虚になり、助け、また、受け入れ、被災者も、また、その被災者を助けるまわりの私たちも、皆が心を致して歩むようになるためのすごい機会だとも思いました。このひどい出来事から、多くの良いこと、益となることが引き出され得る——そして実際に引き出されつつある、そのことをボランティアを通して体験していきましました。

励まされた日本での日々

私はいろいろな意味で今回の日本での日々によって励まされました。素晴らしい友人たちを与えられたことにも、励まされました。2週間という、このような短期間に、これほど素晴らしい友を得ることができるとも思ってもいませんでしたから。傷ついた人々を愛し、彼らに仕え、少しでも助けることができたことにも励まされました。そして、神には、私たち人間には最悪と思えることすら、非常に良いことのために用いることができる、ということとを再び確かめることができ、励まされました。けれども、また、チャレンジも受けました。神とのより親密な関係を追い求め、また友とのより近

しい関係を追い求めて行くべきという、チャレンジです。

全てに渡り、この体験は驚くべきものでした。ただただ驚嘆させられました。私はとてもとても喜んでいきます。チア東北に参加できたことを。山口つよし内閣府副大臣との面会やチア・サポートスクールの富士山麓英語キャンプも含め、非常に速いペースで盛りだくさんのことをこなして行く忙しい旅で、私はあまりよく眠れませんでした。毎日、次はいついどうなるのだろう...と思いつつ、懸命に歩みを重ねていかなばなりません。しかし、どの瞬間も素晴らしいわくわくするものでした。参加させていただけ本当に良かったです。神さまに栄光を帰します!





■ 英語学習グループ(レインボー・アリゲーター／虹のワニたち)の仲間たち(8月・富士山麓にて)

いう、かわいい名前になりました。一番の年下で、英会話体験も少ないので、始めの頃は、子どもたちに緊張感やきこちなさがありました。でも、少しずつ、ことは通じ合い、楽しみ始めるにつれて、子どもたちはだんだんと自信を得ていきました。私は彼らが学ぶ様子を見守ることがうれしく、本当に恵まれ、心温められる思いになりました。

デール先生が出した課題のひとつに、部屋の中にある物を無作為に見つけ出し、各自が見つけたものを使い、寸劇をつくる、というのがありました。

全員が劇中で少なくとも一言セリフを言い、見つけた物を小道具として使わなければなりません。これは難しい課題でしたが、子どもたちは頭が良く、モーセが杖を蛇に変えた話と、ダビデとゴリアテの話、ノアの方舟の物語をテンポよく重ねた寸劇



■ 英会話レッスン中

にする案が、まとまりました。

このキャンプ全体で私が最も感動した出来事は、私たちのグループのある一人の子どもの変化であったろうなと思います。その子は、最初、常に不平を言い、いろいろな問題を引き起こす存在だったので、最後には、ものすごく喜び、張り切り、楽しんだのでした。その子を含め、皆、一生懸命練習しました。

夕食と礼拝のあとで、私たちは、自分たちの寸劇を披露しましたが、終わったあとの反響は本当に驚くべきものでした。私は自分の担当した子どもたちを誇りに思います。そのあと他のグループが、続けて素晴らしい寸劇を見せてくれて、それから私が大好きで、今春ヒットした映画「ソウル・サーファー」、悲劇を乗り越えたクリスチャン・ホームス

チア・サポートスクール 英語キャンプと チア・東北サポート

By Emily Inaba
カリフォルニア州、ホームスクーラー 14才

成田空港で出会った4人の親友

2011年8月24日、私はまもなく生涯の友となる友人たちと出会い、決して忘れることができないであろう旅を始めました。成田空港に父と一緒に迎えに行き、アメリカからの4名の参加者と初めて会った瞬間、私はこの旅が他に類を見ない特別なものとなることが分かりました。そして、1日も立たないうちに、親友たちを得ただけでなく、これまで経験したことはもちろん、想像したことす



■ 成田空港にて

山口つよし内閣府副大臣 (復興担当等)との出会い、 そして、英語キャンプへ

そのひとつは、日本の内閣府副大臣(復興等担当)、山口つよし副大臣(現在、外務副大臣)とお会いしたこと。もうひとつは、その午後からの富士山麓英語キャンプで、心を開き、自分の意見をはっきり表現する、日本人のティーンや低学年のホームスクーラーたちと会ったことでした。

私の見た限り、第二回めのチア・サポートスクール英語キャンプは、大成功でした。美味しい食事にたくさん楽しんでいるスポーツやチームワークを強めるゲーム、そして良き友たち。そして富士山も！ 2泊3日のキャンプ期間中、英語でしか話してはいけなかった。「英語で考え、英語で話す」「キリストの弟子の心を与える」というのがモットーでした。9〜18才の25名の日本人ホ



■ 山口つよし副大臣室にて——内閣府(首相官邸隣り)にて 8月

ームスクーラーたちが年齢ごとに3つのグループに分かれ、そこにアメリカのカリフォルニアとニュージャーシーから来た、私を含む5名のティーンたちがリーダー／英語講師として加わり、各グループを担当しました。

**子どもの変化に感動！
聖書劇の挑戦**

ニコル・スガマと私のグループは、9才から13才と一番年下のグループです。グループのラックネームをレインボー・アリゲーターズ(虹色のワニたち)と



雨の中の富士山登山、 7合目にダッシュ！

翌日、私たちは、富士山に登りました。これは、本当にすごい体験でした。雨でずぶ濡れになり、へとへとに疲れました。でも、すこかったのは、6時間ばかりと言われた七合目までの往復を、3時間たらずでできたことで、とても驚きました。とても、楽しかったです。

事実を飲み込むことが困難！ 数百台の被災した車の中に 立つて——陸前高田市

英語キャンプのあとは、いよいよチア・東北サポートに向かいました。震災の被害を、最も激しく受けた地域です。最初の宿泊先は、大船渡の教会でした。向かう途中、陸前高田市で、被災した数百台の車が置かれている場所を視察する時間が与えられました。筆舌に尽くし難い光景でした。累々と横たわる廃車となった車や消防車、ボート、オートバイ、クレーン車、重機などの悲しい列の間を歩いていく私たちは、ことも出ませんでした。これらのひしゃげた金属の塊の中でたくさんの人々が



貴重な笑顔に出会えた！—— 釜石市の仮設住宅にて

亡くなった……こんなことが実際に起こったという事実を飲み込むだけでも、私にとっては困難なことでした。まさに現実とは思えないことで胸がつまりました。

翌日、私たちは釜石へと向かい、仮設住宅で暮らす人々のために、支援物資の支給を行いました。そこで私たちを温かく迎えてくれた人々の対応のやさしさは、何もかもを失った方々だとは、信じがたいほどでした。ほとんど終わって後片付けを始めた時、1人のおじいちゃんと、私たちの何人かが、会話を始めました。

最後には、USAチーム全員がこの会話に加わりました。そこでおじいちゃんがおっしゃったことは、その方が生涯で3回の津波にあったというところ、そして今回の津波では、実際に波に飲み込まれ、両足と背中を骨折し、最近退院したばかりだ、と

いうことでした。私たちは、おじいちゃんに聖書を渡し、おじいちゃんのために祈りますと言いました。その時のおじいちゃんの写真は、心に染み入るような笑顔で、かけがえのない、貴重な笑顔でした。

神さまの臨在と神さまの計画

神さまは本当にすこいお方です。ほんの短い会話を通しても、主の万能で偉大な力を感じ、力を得ることが出来ます。ボランティアに向かった週はそうしたこと連続でした。その週のほとんどの時間、神さまの力と愛、創造力を実感し、励まされ続けました。被災した家屋や地域の悪臭や害虫を除去するための殺菌消臭剤のEMというバクテリア剤を撒いてる時も、物資補給のマーケットをする時も、被災者の皆さんやメンバーのみんななどの短い会話を交わしている時も、汚泥の掻き出しをしたりする中にも、神さまがそこに臨在されているとほつきり感じました。

このボランティアで明確に感じたことは、神さまには計画があるということです。この恐ろしい災害を通してでさえ、神さまはそれを何か偉大なことへと変えて下さろうとしていることを確信しました。そして神さまは、私たちに、神の愛を伝え、被災者の皆さんと共に労する機会を与えて下さいました。

**謙虚になること。そして、
たくさんのものをいただいた！**

今回の機会を通じ、私はもっと謙虚になつて他の人々と協力し合つて働くことへのチャレンジも受けました。外からは、私が被災者の方を助けた、と見えるかもしれませんが、でも私は、自分のほうこそ、たくさんのものをいただいたのだと思います。被災者の皆さんが、私から得たわずかのものよりも、はるかに深い、多くのものを。

今回の日本での日々で、私の物の見方や世界観はがらりと変えられました。本当にグリーンと成長できた旅だったとおもいます。

今までの人生で最高の夏だったかつて？ もちろんです。

■ 体験を分かち合ってくれた釜石のおじいさん——津波に飲まれ、腰や足を骨折しながら助かった。聖書を受け取ってくれた後で(8月)

